

OnAir 3000 ユーザーレポート

東北放送株式会社 様

OnAir 3000



第3、第8スタジオ・サブを更新



東北放送株式会社
技術局 制作技術部
佐藤 大樹

東北放送(以下、TBC)では2016年3月、第8スタジオ・サブ、第3スタジオ・サブの更新を行いました。第8スタジオは、生放送を中心としたTBCラジオのメインスタジオ、第3スタジオはワンマン運行も可能なスタジオです。

更新検討

今回、調整卓はシンプルかつコンパクトなもので両サブとも同一のもの、操作は勿論、保守メンテナンス部品の共用化をはかる、調整卓及び周辺機器は、将来の社屋移転に備え、移設を前提としたシステム、というコンセプトで検討しました。弊社のラジオサブは今まで、アナログ音声調整卓でしたが、2011年に初めてデジタル音声調整卓としてOnAir 3000を採用

しました(絆スタジオ)。当初はデジタルの調整卓の入出力ルーティングやシーン保存など、新しい機能に戸惑いがありましたが、数ヶ月で技術担当者以外の制作担当者もほぼ使いこなしており、今回もデジタル音声調整卓をベースに仕様書を作成。一方、今回は2カ所のサブを更新するということもあり、制作担当者から「両方のサブをできれば絆スタジオと同じ音声調整卓にして欲しい。」との要望がありました。これについては、音声調整卓を3つのスタジオで同機種にすることで、保守面では部品共用が可能であること、また機器更新作業後のトレーニング期間が最小で運用に入れることなど、メリットが多いと判断しました。加えて、将来の社屋移転時にも、同じ機種であれば、段階的に機器移設～運行に入れる事も想定しています。以上をもとに、技術担当者、制作担当者ともに相談した結果、調整卓は弊社の絆スタジオで導入していたOnAir 3000を採用しました。

屋改修～機器更新～運用開始の後、第8スタジオの解体～建屋改修～機器更新～運用開始、という流れで行いました。同時に2つのスタジオを更新できない分、スケジュールが厳しくなってしまいましたが、なんとか完成にこぎつけました。

音声調整卓が絆スタジオと同じということと、システムをシンプルに組んだため、トレーニングはほとんど行わずに、簡単な説明だけで即運用開始することができました。

最後に

スタジオ更新にあたり、スタジオ建家の設計施工では日本音響エンジニアリング様及び共立建設様に、またスタジオ機器系統の設計、設置ではスチューダー・ジャパン・ブロードキャスト様及びアイコニック様に多大なるご協力頂きました事、この場をお借りして深く感謝致します。

打合せ、施工、そして完成へ

今回の更新は、スタジオの移設ではなく同じ部屋での更新となること、第3、第8、絆、の3つのスタジオのうち、最低2つを運用状態にしないと通常の番組制作が成り立たないことから、工事はまず第3スタジオの解体～建

